

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	15 - デ - 6
-----------------	------------

平成 15 年度配分 研究成果の概要

研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究の 場合の分担
	デザイン学部	技術造形学科	講師	佐藤 聖徳	総括
共同 研究 者	デザイン学部	生産造形学科	教授	迫田 幸雄	プラスチック
	デザイン学部	生産造形学科	助教授	田邊 英隆	木材
	デザイン学部	技術造形学科	教授	高梨 廣孝	金属
	デザイン学部	空間造形学科	教授	鳥居 厚夫	金属
発表の方法 (予定で可)	1 紀 要			号 数	第 5 号 (17年3月発行予定)
	2 学会等での発表 学会等名:			発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日
	3 その他 発表の方法 デザイン学部の授業使用の ためにデータベース化する。			発表日 (発表 予定日)	平成17年6月

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

製品やデザインモデルを製作する際の材料加工を、高い精度で行うためには、治具は必須の技術である。これらの種類を収集分析して分類し、マップ化すると同時に製作者の個人的技術知識を公開する。それらをデータベース化し授業に使用する。

(研究の実施方法等)

- 1 身近な制作現場である大学学内の加工工房から治具を収集し、使用目的、使用方法を検証する。治具を精密測定し、数値化したのち分析して記録。
- 2 県内、特に浜松地区での聞き取り、記録を行い検証。
- 3 これまでに蓄積された技術情報を文献によって調査。
- 4 成果発表(紀要掲載、展示など)を行う。

(得られた成果等)

- 学内工房で使用している治具の精度を精密測定器具によって測定し数値化することによって、材料加工技術者のノウハウを客観的に記録。
- 各材料別の治具製作事例をまとめたことで、新しい分野の分類をすることができ、同時に教材としての展開に期待が持てる結果をえている。
- 横浜市金沢区の治具製作会社にコネクションを持って、今後の精密材料加工研究を進めるためのリアリティーを持つことができた。(現在、紹介工場を見学)